大宰帥大伴卿、大弐丹比県守卿の民部卿に遷任するに贈る歌一首

五五五番

君がため　醸みし待ち酒　安の野に　ひとりや飲まむ　友なしにして

賀茂女王、大伴宿禰三依に贈る歌一首

五五六番

筑紫舟　いまだも来ねば　あらかじめ　荒ぶる君を　見るが悲しさ

土師宿禰水道、筑紫より京に上るに、海路にして作る歌二首

五五七番

大舟を　漕ぎのまにまに　岩に触れ　覆らば覆れ　妹によりては

五五八番

ちはやぶる　神の社に　我が掛けし　幣は賜らむ　妹に逢はなくに